

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた  
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第5回）

議事概要

1. 日時：平成29年3月22日（水） 8：30～10：00
2. 場所：合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室
3. 出席者：

丸川 珠代	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 担当大臣
平田 竹男	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競 技大会推進本部事務局長
井内 摂男	内閣府知的財産戦略推進事務局長
宮田 亮平	文化庁長官
松永 明	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
永山 裕二	文化庁長官官房審議官
時澤 忠	総務省大臣官房地域力創造審議官
<u>吉田 真人</u>	<u>総務省情報流通行政局審議官</u>
下川 眞樹太	外務省大臣官房国際文化交流審議官
<u>田村 公一</u>	<u>国税庁長官 酒税課長</u>
堀江 裕	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
<u>大角 亨</u>	<u>農林水産省食料産業局審議官</u>
<u>前田 泰宏</u>	<u>経済産業省 大臣官房審議官</u>
<u>加藤 庸之</u>	<u>観光庁観光地域振興部長</u>
<u>鳥田 浩平</u>	<u>東京都生活文化局文化振興部長</u>
<u>戸谷 泰之</u>	<u>東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部計画 調整担当部長</u>
<u>青山 忠幸</u>	<u>東京都産業労働局産業企画担当部長</u>
布村 幸彦	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組 織委員会副事務総長

（オブザーバー）

- |              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| <u>塩野 徹</u>  | <u>全国知事会調査第二部部長</u>         |
| 荒木 慶司        | 全国市長会事務総長                   |
| 石田 直裕        | 全国町村会事務総長                   |
| <u>柄 博子</u>  | <u>独立行政法人国際交流基金理事</u>       |
| <u>池原 充洋</u> | <u>独立行政法人国立文化財機構理事</u>      |
| <u>山下 和茂</u> | <u>独立行政法人国立美術館理事</u>        |
| <u>平林 正吉</u> | <u>独立行政法人日本芸術文化振興会理事</u>    |
| <u>若井 英二</u> | <u>株式会社海外需要開拓支援機構専務執行役員</u> |

佐藤 隆正 独立行政法人日本貿易振興機構サービス産業部部長  
福島 正敏 独立行政法人国際観光振興機構海外プロモーション部次長

(事務局)

多田 健一郎 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官  
十時 憲司 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局参事官  
清水 幹治 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局参事官

※下線は代理出席

#### 4. 議事要旨

##### <丸川東京オリンピック・パラリンピック大臣 挨拶>

##### 【丸川大臣】

皆様おはようございます。今日は朝からお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この会議で検討を進めてきていただいております「beyond2020（ニーゼロ・ニーゼロ）プログラム」については、1月のロゴマークの完成に、皆さんの注目も集まって、沢山の方に取り上げていただいております。大変ありがたいことでした。ご協力いただいた学生の皆様には、発表式に参加いただきまして、宮田長官のドラも登場し、盛大に発表することができました。beyond2020のマークは、若さ、躍動感あふれる良いロゴマークができました。このロゴマークで日本中をいっぱいにしたいと思っています。

プログラムは既に79件の事業を認証しており、順調に認証件数が増やしているところでございます。日本には、伝統芸能をはじめ、和食やメディアコンテンツなど、世界に誇れる多様な文化があり、皆様におかれましても、是非このbeyond2020プログラムを、一緒に盛り上げていただければと思います。

私自身も、魅力的なプログラムについては、自分が積極的に参加していきたいと思っています。よろしく申し上げます。

また、この度、本会議の下に「事業実施推進プロジェクトチーム」を立ち上げます。2020年に向けた文化プログラムの関係機関を相互に連携し、重複したり、あるいは類似する事業の調整をこのチームで行うとともに、組織が共同で事業を展開して、全国的に広げていく、後押ししてく力をこのチームから得たいと思っています。beyond2020プログラムや、参画プログラムを具体的に実施していくための体制を整えたという意味がございまして。

関係機関の皆様におかれては、より一層、文化プログラムを一体感を持って取り組んでいただけるよう、よろしくお願ひしたいと存じます。

**< beyond2020 プログラムについて >**

- ・事務局から、資料1「beyond2020 プログラムについて」を説明し、了承。

**< 平成 29 年度の各省庁等の取組について >**

- ・関係構成員より、資料2から資料14により各省庁等の取組みを報告。

**< 文化経済戦略特別チームについて >**

- ・文化庁より、資料15について説明。

**< 事業実施推進プロジェクトチームについて >**

- ・内閣官房オリパラ事務局より、資料16について説明。

**< 意見交換 >**

**【平田局長】**

東京都に質問だが、2021年はどうするのか。2020年でぱっきりと終わるのか。beyond2020と名前をつけたが、2020年ではっきりと終わると残念感が漂う2021年になってしまうと思っている。

**【東京都】**

資料の脇を見ていただくと「レガシーの創出」と縦書きで書いており、当然やっていく中で、これから市民の皆様から支援されるものや、一時的な盛り上げのものもいろいろなものが出てくると思っている。その中で、レガシーは多面的なものがあって、市民の皆さんから支援されるものや、アーティストがやった中で残って、アーティストが次の新たなものを創り出すというレガシーが出てくるので、やったものがそのまま同じように残ることがレガシーではなく、そこに人材とか市民の方の評価などがレガシーとなって beyond2020 になっていくと思っている。決して、2020年に目標を求めることがその先を考えてないことではないと理解している。

**【平田局長】**

我々も文化カレンダーを作っていくときに、2020年で終わらないカレンダーにして、2020年以降も伸ばしていきたいと思っている。

また、事務局に質問だが、国際交流基金が認証組織として、認証できることは大切だと思うが、いつ頃から認証組織になることは可能か。

**【オリパラ事務局】**

国際交流基金も認証組織になりうるとガイドラインで定めているが、まずは試行的に3つくらいの組織で5月より、認証組織として運用をはじめていただき、その実績を踏まえて、ガイドライン、FAQ を作ってやっていただく予定。実績を作る試行期間については未定だが、できるだけ短い期間で実施したい。

**【平田局長】**

まず試行する際に、最も一緒にやっていただく必要があるのが、国際交流基金でないか。

**【オリパラ事務局】**

現時点では、国際交流基金が試行組織になることは、念頭になかったが、ご検討をお願いしたい。

**【国際交流基金】**

認証については、海外で使用できるかというロゴマークの国際商標の取得が非常にネックになっている。

**【平田局長】**

2018年の「ジャポニスム2018」の際に、フランスでマークが使えないのは辛いので、事務局には、フランスやイギリス、中国等、主だった国で国際商標を取得することをお願いしたい。

**<平田事務局長より総括>**

**【平田局長】**

今日はありがとうございました。テロもバリアフリーも交通もいろんな観点でオリンピック・パラリンピックの準備を進めているが、文化についていえば、日本人は日本の文化を知らないということを感じている。文化プログラムを形づくることより、日本の文化政策の基礎を築かなくてはいけないと考えていたところ、官邸からも文化経済戦略チームを作る指示があり、根本的に文化政策を見直すことになった。政策の中身自体をレガシーにしていきたい。文化庁宮田長官からのご指摘もあったように文化・観光・産業という三

輪車があるが、皆さんの叡智を借りて、2つくらい項目を追加して、五輪車にしていきたい。

文化プログラムはよく、量の話がされるが、質を重視して、我々でしかできない人生一度きりの文化政策や予算に挑戦していきたいので、皆様のご支援をいただきたい。本日はどうもありがとうございました。

・ 閉会